

第八十七回フオト句優秀作品（30年9月10日）



昌康

炎天の虫も傘差す日差しかな



淹れたての  
香りにしみる  
蝉しぐれ(陸)

人道の

外れを正す

松手入れ(勝)



昼休み

OLはみな

リラックステキヤ

寸 評：

1) 炎天の虫も傘差す日差しかな

松田 昌康

アゲハの幼虫が蛹になるべく枯れた草の茎をよじ登っている。この夏は酷暑。草の茎を傘にみたててうまい句をつけて面白い作品に仕上がった。炎天という季語が効いている好例だ。

2) 淹れたての香りにしみる蝉しぐれ

池田 隆

上5中7だけでコーヒーを淹れていることがわかる。画面の奥の緑から林に囲まれていることがわかる。画面からの視覚と香りと蝉しぐれという嗅覚と聴覚を句に盛り込んだテクニックが憎い。

3) 人道のはずれを正す松手入れ

清水 勝

象の鼻のような変わった形の松の木である。人生の紆余曲折の経て真正直な道に戻ったのは、毎年秋になると余分な枝葉を取り払い丹念に姿を整える剪定作業の結果であると作者は言いたいのである。

4) 昼休みOLはみなリラックス

中村 晃也

フラフラと無方向に揺れている金魚の群れ。これを昼食後オフィスを離れ街頭に出て時間をつぶしているOLの姿に見立てたセンスを買いたい。

## 句 付



今月のお題写真は池田さんの提供。サッカーボールを蹴っている楽しそうな園児の写真です。

寸 評：

1) 嬉々として昔缶けり今サッカー 松田 昌康

昔はサッカーなんて競技はしらなかった。狭い路地で蹴って遊ぶものは缶蹴りしかなかった。

2) セクハラもパワハラもない良い時代 中村 晃也

我々が子供の頃はこんな言葉はなかった。あの頃は男の子よりも女の子が体格がよく強かった。

3) 抜け出すぞチーム力より個人技で 長尾 進一郎

自己を殺してまでしてチームのために努力するのは美しいことだと教えられてきた。今や滅私奉公の時代ではなく自己の持つ能力を最大限に発揮してチームに貢献することが大事だ。

大人のサッカー界では正確なパスは勿論だが、それ以上に強烈なドリブル力、シュート力が求められている。

4) 芝萌ゆる球蹴る子らのはしゃぎ声 池田 隆

芝萌ゆる春の季節に自由にボールを蹴る嬉しそうな子供たち。

我々は各自一個のボールを与えられることも雑草一本もない芝生で遊ぶこともなかった。幸せそうな子供たちの歓声が聞こえてくる。

5) 元気っ子走って蹴って涼新た 清水 勝

夏休みが終わって快適な気候になった。解放感にあふれた子供たちの元気な姿をみると思わず笑みがこぼれる。